

自己点検・評価報告書

2007年度

愛知大学短期大学部

I. 学科の概要

1. 名称

学校法人愛知大学 愛知大学短期大学部

2. 所在地

愛知県豊橋市町畑町 1-1 (愛知大学豊橋校舎内)

3. 沿革

- 1959年4月 短期大学部文科(昼間女子)を設置
- 1961年4月 生活科(昼間女子)を設置
- 1988年4月 留学生別科、別科英語専修、別科生活環境専修開設
- 1997年3月 別科英語専修、別科生活環境専修を廃止
- 1997年4月 愛短オープンカレッジ開設
- 2000年4月 文科を言語文化学科、生活科を現代生活学科へ名称変更。愛短オープンカレッジを、愛知大学オープンカレッジへ移管
- 2002年4月 留学生別科を愛知大学外国人留学生別科へ移管
- 2003年3月 教職課程廃止
- 2005年4月 言語文化学科、現代生活学科を改組し、ライフデザイン総合学科を設置、開設(地域総合科学科認定)

4. 現在の学科構成

ライフデザイン総合学科 (定員 200名)

5. 志願者・入学定員・収容定員・在籍学生数

現在の学科の開設以降のそれぞれの数値は以下の表に示す通りである。

| 年度 | 志願者 | 入学定員 | 収容定員 | 在籍者数 |
|------|-----|------|------|------|
| 2005 | 503 | 200 | 400 | 501 |
| 2006 | 434 | 200 | 400 | 492 |
| 2007 | 413 | 200 | 400 | 479 |

6. 教員数

現在の学科の開設以降の職種別の人数は次ページの表に示す通りである。教員数については人事政策により全般的に抑制傾向にあるが、特に専任教員に関しては計画的な減員が図られ、2007年度より、設置基準上の基準教員数プラス1名となった。業務がますます煩雑化するなか、この限られた専任スタッフを中心にいかに効率よく運営していくかが課題となっている。

| 年度 | 専任 | 兼任 | 非常勤 | 合計 |
|------|----|----|-----|----|
| 2005 | 14 | 7 | 38 | 59 |
| 2006 | 14 | 6 | 34 | 54 |
| 2007 | 12 | 10 | 46 | 68 |

7. 資格取得・検定合格

旧学科に引き続き司書課程を設置し、希望する学生に取得のチャンスを提供している。新学科開設以降の同課程の履修者、修了者（司書取得者）の状況は以下の通りである。なお、2007年度からこの課程の一部科目を本学のカリキュラムの中に取り入れ、履修により得られた単位を本学の卒業要件単位として認定することとし、司書取得希望者の勉学上の便宜を図っている。（詳細はIV章6(2)を参照のこと。）

| 年度 | 履修者 | 取得者 |
|------|-----|-----|
| 2005 | 33 | 12 |
| 2006 | 52 | 19 |
| 2007 | 53 | 21 |

これ以外の資格取得や検定合格に関しては、学生が本学科の科目を受講することにより、自らの資格取得や検定合格を促進するようになっている。例えば、学生に人気の高いTOEICの場合、「コミュニケーショングリッシュ」、「リスニング」、「ラピッドリーディング」、「マスメディアイングリッシュ」がその検定内容に深い関係が持たせてある。そのため同科目を履修することにより、TOEICのスコアアップを図ることができる。また、女子学生に人気の高い色彩検定の場合「色彩とデザイン」が、秘書検定であれば「美しい日本語」や「ビジネスマナー」が対応している等である。

そのほか、本学のカリキュラム外のものではあるが、オープンカレッジの科目や就職に関することを統括しているキャリア支援課による職業支援講座の中に資格取得や検定合格のためのものがあり、それらを積極的に紹介し、受講を促している。ちなみに、このうちオープンカレッジの科目に関しては、旧学科同様、履修により得られた単位を本学の卒業要件単位として認定しており、資格取得や検定合格に熱心な学生の勉学上の便宜を図っている。なお、得られた資格や合格した検定については、学生からの申請により、本学のカリキュラム上の「技能検定」や、その資格・検定に関連する科目に振り替えて単位認定している。

8. 卒業生の進路

学生の進路に関しては、専任教員の中から選ばれた就職委員を中心にして、所属クラスの担任、短大事務課、キャリア支援課の連携のもと、状況の把握、指導を行っているが、就職か併設の愛知大学各学部への指定校推薦制度による編入学が大部分を占めている。新学科開設以降の進路決定状況は以下の通りである。

| 年度 | 卒業者数 | 就職 | 内部編入学 | その他(*) |
|------|------|-----|-------|--------|
| 2005 | 242 | 170 | 18 | 54 |
| 2006 | 238 | 172 | 18 | 48 |
| 2007 | 232 | 181 | 15 | 36 |

* 他大学、専門学校等への進学、編入学、海外留学等

(1) 就職状況

最近3年間における内定率の推移は以下の通りである。就職希望者については概ね高い内定決定率を維持しているといえるが、全卒業者数からすると、内定決定率は80%弱となっている。

| 年度 | 卒業者数 | 就職希望者 | 内定(決定)数 | 内定率 |
|------|------|-------|---------|-------|
| 2005 | 242 | 176 | 170 | 96.6% |
| 2006 | 238 | 178 | 172 | 96.6% |
| 2007 | 232 | 187 | 181 | 96.8% |

地域については、三河地方を中心に、遠州（静岡県浜松市とその周辺）を含む地元企業への就職がほとんどを占めている。業種は金融系、製造業等を中心として多岐に渡っている。なお、トヨタ自動車等、地元企業からの指定校推薦も、およそ50名分の枠がある。しかしながら、名古屋地区からの推薦については、枠があっても応募者が出ないケースもある。地元密着という本学の性質との兼ね合いから難しい側面もあるが、今後とも改善を図っていきたい。

(2) 編入学の状況

上述の、併設の愛知大学各学部への指定校推薦編入学制度により、約30名の入学枠に対して毎年15～20名程度が進学している。内定決定率が堅調なこともあり、進学者数は若干減少傾向にあるが、併設短大である本学の大きな特徴のひとつとして重要視している。可否の最終的な確定が2年次の10月となるため、希望者には慎重な指導が必要な部分も多いが、短大で学んだことを更に発展的に学習したいという希望を持つ学生たちにとってはメリットの大きい制度であるため、今後も維持していきたい。

なお、編入学としてはこれ以外に、各学部への一般入試によるもの、他大学への指定校推薦あるいは一般入試によるものがあるが、いずれも数としては少なく、例年若干名程度となっている。こちらもゼミ教員および短大事務課において個別に相談し、指導を行っている。

Ⅱ. 学生・教員・地域社会への効果、成果を上げた事項

1. 学生（在学生 → 高校生については3(1)を参照のこと）

現在の学科開設時に目指したことの1つに、様々な科目を配置し、学生が自らの興

味・必要によって多様な学びができるようにする、ということがある。新学科開設以降の開講科目と各科目の履修状況、エリア（専攻）の選択状況（別表および以下の表を参照）からすると、この点で一応の成果があり、学生に、単に知識や技能を身につけさせるだけでなく、高校までの、学ぶ科目が決まっている、いわば“レディーメード”のパターンによる学びから脱却し、自分の将来を見据えつつ自らの意志で学びたいことを選び、学ぶというスタイルを身につけさせ、主体的に考え、行動する意識を涵養することができたのではないかと思われる。

エリア別学生数及び卒業研究別学生数

| 入学年度 | 日本文化 | 日本語 | (英米文化) | (英会話) | オフ・情報 | 食・健・ス | 心理・社会 | 合計 |
|------|------|-----|-------------|-------|-------|-------|-------|-----|
| | | | 英語コミュニケーション | | | | 人間社会 | |
| 2005 | 43 | 13 | 30 | 42 | 36 | 57 | 21 | 242 |
| 2006 | 42 | 14 | 48 | | 44 | 62 | 31 | 241 |
| 2007 | 40 | 15 | 47 | | 78 | 40 | 15 | 235 |

※ エリア決定は1年秋学期、除籍・退学等で入学者数とは異なる。

なお、できるだけ早くそのような学びのスタイルを身につけ、かつ、効果的で系統だった学びができるよう、以下のような、将来の目標別の履修モデルを作成の上、入学時に全員に配布し、また各学期の履修登録直前に履修相談の時間を設け、その点についてのフォローアップを行ってきたが、現在に至るまで毎年、そうした履修モデルに示したものを含め、適格認定を受けた学科開設時に構想したすべての科目(*)を開講し、また必要と思われる科目を新たにこれに加え、学生の多様な学びを保証している。

* … カリキュラムの改訂により廃止となったものを除く。また、名称を変更したものが一部ある。

履修モデル例（科目名は学科開設時のもの）

(1) ライフデザインの達人に

「ライフプランニング」、「キャリアプランニング」、「女性と社会」、「社会と福祉」、「生活と情報セキュリティ」、「たべものと栄養」、「健康と環境」、「女性のからだと健康」、「ダイエットと運動」、「現代社会と生活」、「生活と福祉」、「家族論」

(2) オフィスワークで活躍を

「美しい日本語」、「文書表現演習」、「情報リテラシー」、「コミュニケーション論」、「情報応用」、「応用敬語」、「コミュニケーションイングリッシュ」、「ビジネスマナー」、「簿記会計実務」、「プレゼンテーション」、「ビジネスイングリッシュ」

(3) 食や健康がキーワードの仕事のために

「色彩とデザイン」、「たべものと栄養」、「たべものと栄養の演習」、「たべもの環境」、「健康と環境」、「食生活プランニング」、「食品食材の知識」、「ヘルシークッキング演習」、「ベーシッククッキング演習」、「ティータイムコーディネート演習」、「ダイエットと運動」

(4) 情報マネジメントの分野へ

「情報リテラシー」、「色彩とデザイン」、「コミュニケーション論」、「応用情報」、「ド

「コミュニケーション演習」、「産業社会と人間」、「図表化技法」、「Webデザイン」、「生活と情報セキュリティ」、「マスコミュニケーション論」

(5) 旅行・ホテルの業界へ

「美しい日本語」、「文書表現演習」、「情報リテラシー」、「日本文化のかたち」、「アメリカの歴史と文化」、「応用敬語」、「コミュニケーションイングリッシュ」、「スピーキング」、「リスニング」、「ビジネスマナー」、「ビジネスイングリッシュ」、「食生活プランニング」

(6) 福祉・医療関連の仕事のために

「社会と福祉」、「コミュニケーション論」、「心理学」、「言語コミュニケーション」、「たべものと栄養」、「健康と環境」、「ダイエットと運動」、「人間関係の心理」、「コミュニティの心理」、「生活と福祉」、「ボランティア活動」

(7) 芸術・デザインの感性をみがぐために

「美しい日本語」、「色彩とデザイン」、「芸術」、「心理学」、「日本文化のかたち」、「伝統文化演習」、「映像文化」、「モダンカルチャー論」、「現代文化演習」、「西洋の伝統思想」、「ティータイムコーディネート演習」、「Webデザイン」

(8) 英語力をみがき海外留学を

「コミュニケーションイングリッシュ」、「スピーキング」、「リスニング」、「ラピッドリーディング」、「ベーシックライティング」、「アメリカの歴史と文化」、「イギリスの歴史と文化」、「情報リテラシー」、「プレゼンテーション」

(9) 進学（四大編入）を視野に

「美しい日本語」、「文書表現演習」、「情報リテラシー」、「情報応用」、「英語初級」、「論証作文」、「ドキュメンテーション演習」、「プレゼンテーション」、「図表化技法」（および、関連するエリアの科目と愛知大学で開講の単位互換科目）

2. 教員

本学は、新学科のキー・コンセプトの1つである、外部との交流・連携による発展、に則り、従来からの併設の愛知大学および愛知大学オープンカレッジと教学上の結びつきを深め、そこで開講されている科目につき一定の単位認定を実施している。また、学外との結びつきに関しても、本学の科目の一般社会人への開放（科目等履修生、オープンカレッジ聴講生）、愛知県内各大学および近隣の短期大学との単位互換制度による単位認定、従前から行われてきた近隣地方自治体との連携講座の継続およびさらなる充実等を行っている。

こうした学外の方々、機関との交流・連携は、本学、殊に教学を担っている教員にとって、「外部から見た本学」、「外部と比較した本学」をうかがい知るまたとない機会となっており、教学、その他の面での本学の今後の進むべき道を考える上でよい刺激となっている。

3. 地域社会

(1) 高校生受け入れの観点から

本学への入学を希望する高校生および実際の入学者は以下の表の通りである（志願者、入学定員については再掲）。志願者自体が減少しつつあるものの、今のところ設定された定員以上の入学者を確保しており、また、18歳人口の減少に代表される、昨今の短大全体を取り巻く厳しい情勢を勘案すると、周辺地域の高校生、そしてその父母、高校サイドからある程度評価され、そのニーズにあった展開ができていているものと思われる。

| 年度 | 志願者 | 入学定員 | 入学者 |
|------|-----|------|-----|
| 2005 | 503 | 200 | 250 |
| 2006 | 434 | 200 | 246 |
| 2007 | 413 | 200 | 236 |

(2) 卒業生送り出しの観点から

本学学生の進路、特に就職に関しては前章の8(1)で述べたとおりであるが、多くの学生を地域を支える人材として送り出すことにより、地域社会のニーズに応えることができているものと思われる。

(3) その他

本学では、近隣の高等学校との連携を深め、出張講義や本学の授業への受け入れ、休暇期間中の特別プログラム実施などを行い、また、本学教員がそうした高校の評議員に就任し、運営の一翼を担うなどしてきた。一方、一般社会人に対しては、専用の入試制度（「社会人入試」）や、先述のような科目等履修生やオープンカレッジ聴講生の制度を設けるなどして学内プログラムへ参加いただけるよう努め、また学外でのプログラムとして近隣地方自治体との連携講座を実施してきた。このような活動を通じて、学外の方の学びに対するニーズに応えるという形で周辺の地域社会に一定程度の貢献を果たしているものと思われる。今後ともこうした地元社会との交流・連携を堅持し、さらに拡大すべく努力していきたい。

Ⅲ. 適格認定評価時に受けた指摘事項への対応

* 『適格認定評価報告』2 ページ 「2 教育課程」内 2 箇所
指摘事項 1

… しかし、ライフデザイン総合学科の基礎となるベーシックフィールドの中に当該学科の核となる教科としてのライフデザイン論またはそれに類する教科が見あたらないが、必要ではないだろうか。

現在の学科開設時より、ベーシックフィールドの共通エリア 1 年次配当科目として「ライフプランニング」、「キャリアプランニング」を設置しており、後者については

さらに 2007 年度より必修科目とした。これらの科目は、「自分らしい生き方や職業について主体的に考え、自分らしさを表現し、自分の考える自らの将来像の具現化を図ることのできる能力や教養を養成する」という本学の教育目標を達成するための基礎として位置づけられている科目であり、自分を知り、自分らしい生き方を考え、職業観を培うきっかけを提供することをその主眼としている。

指摘事項 2

なお学科の基礎としては、必修ユニットとして基礎演習と発想・議論演習の 2 科目を置き、専任の教員がそれぞれのクラスで同一教科を担当することになっているが、焦点を失わないためには、教員全員が地域総合学科とライフデザイン総合学科の理念を十分理解した上で、同一見解の上に立って総合教育に取り組む努力が必要であろう。

現在の学科の教育理念・目標については、構想・設置の段階で、本学の専任スタッフ全員で考え出したものであり、現在でも共通の認識となっている。「基礎演習」と「発想・議論演習」については、本学のカリキュラムの、特に基礎の段階におけるコアの中のコアたる科目と位置づけ全員必修としており、次年度の授業計画策定に際して、短大部長および教学面を統括する教学主任と担当教員が集まって意見や情報を交換し、授業の方向性の統一やシラバス・内容の共通化を図っている。

IV. 学科開設後に計画して実施した改善・工夫、成果を上げた事項

すでに触れたことを含め、代表的な事項を以下に挙げる。

1. 在学生向け各種ガイダンス実施（2005 年度～）

本学では、勉学の最初（基礎）と最後（まとめ）の部分のコアの科目と位置づける「基礎演習」、「発想・議論演習」、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」、そして、（これに加え、前章で述べたように、2007 年度より）「キャリアプランニング」の 4 科目のみを全員必修とし、その他の科目は卒業要件のルール内で学生が自由に選択できるようになっている。一方、学生は高校まで、基本的にいわば出来合いのパターンで履修をしてきて、自分の将来を見据えつつ自らの意志で科目や学びたい領域を選ぶことに慣れていない。そのため、特に 1 年生に対する履修指導を旧学科より強化し、入学時、2 年進級時だけでなく、各学期の授業期間末の 7 月、12 月にも教学上のガイダンスを行い、その点についてのフォローアップを行っている。

2. 高大連携の取り組み（2005 年度～）

地域社会との交流・連携の一環として、旧学科以来行われてきた、近隣の高等学校での出張講義実施に加え、そうした学校の学生の本学授業への受け入れ、休暇期間中の本学での特別プログラム実施などをスタートさせた。また、本学教員がそうした高校の評議員に就任して運営の一翼を担うなどの形で、教育以外の面での連携も図られ

つつある。

3. 学生の父母との連携強化（2005 年度～）

学生の父母との連携を旧学科のとき以上に強化すべく、父母の組織である後援会との結びつきをより緊密なものとし、情報の提供や意見交換を含む父母との交流の機会を増やすよう努めている。こうした考えのもと、従来から行われてきた、いわゆる父母会にあたる行事「ファミリーオープンキャンパス」の内容をリニューアルし、また以下の 11 や 15 のような試みをスタートさせた。

4. 他短大訪問（2006 年度）

近隣の愛知学泉短期大学、岡崎女子短期大学をはじめ、大阪大谷大学短期大学部（大阪）、金沢学院短期大学（石川）、育英短期大学（群馬）を訪問し、日頃関心はあってもなかなか知る機会のない他校の状況、問題点や工夫などを直接詳細に伺った。この他短大への訪問は、本学の長所、短所を改めて認識するよい機会となり、今後本学が取り組むべき課題、行うべき改善のヒントが多く得られた。（ちなみに、以下の 5 はこの訪問の成果をもとに始めたことである。）

5. 『学習の記録』発行（2006 年度～）

この冊子は、卒業年次生に、教育課程上、本学での勉学の“まとめ”の位置づけになっている「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の中で自分がどのようなことをどのように行ってきたかをまとめ、それを含め自らの勉学を総括させたものであり、学生にとって自分の行ってきた努力を改めて認識・確認するよい機会になっていると同時に、そこに表明されている学生の考えや指摘の中には内容的に授業改善に繋がる事柄も含まれているため、教員にとってもよい情報源となっている。

6. カリキュラムの改訂（2007 年度）

新学科開設 2 年が経ったところで、カリキュラムについて総括を行い、次のような改訂を行った。今後とも、よりよいカリキュラムを目指し、引き続き検討を行っていききたい。

- (1) 諸般の事情により選択科目となっていた 1 年次配当の「キャリアプランニング」を必修化し、学生全員が履修するようにした。
- (2) 併設の司書課程の情報関係の科目を本学のカリキュラムの中に取り入れ、履修により得られた単位を本学の卒業要件単位として認定することとした。これは司書取得希望者の勉学上の便宜を図るとともに、主としてオフィス・情報エリアの情報ユニット科目の充実を目指しての改訂である。
- (3) 併設の愛知大学学部との共通カリキュラムをスタートさせ、まずは情報系科目と語学科目を部分的に合同で開講することとした。これにより学生に、学部学生とともに学ぶというよい意味での刺激を与え、また、さらに多様な科目を提供することができるようになった。

7. 他短大との相互評価（2007年度）

私立短期大学協会の紹介により、大阪国際大学短期大学部（大阪府守口市）と、短期大学基準協会の定める第三者評価に係る評価基準に示されている評価領域のうちの、特に教育に関わりの深いと思われる以下の5項目に焦点を絞り、相互評価を行った。

- (1) 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標
- (2) 評価領域Ⅱ 教育の内容
- (3) 評価領域Ⅲ 教育の実施体制
- (4) 評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果
- (5) 評価領域Ⅴ 学生支援

普段、当たり前のごとくのように運営していることであっても、質問として改めて問われると回答に窮することや、先方からの意見で改めて気づくことが少なからずあり、上記3の他短大訪問同様、本学の長所、短所を認識するよい機会となり、今後本学が取り組むべき課題、行うべき改善のヒントが多く得られた。

8. 「平成19年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム」申請（2007年度）

本学の教育活動を推進し、一層活性化させる契機とすべく、同プログラムへの申請を行った。残念ながら採択されるには至らなかったが、審査に関する文部科学省からのコメント等を参考に、近い将来改めてこの種のプログラムに申請すべく検討を進めたいと考えている。参考までに、申請内容の概略を以下に記す。

取組名称：愛短カフェを核としたライフデザイン支援

副題：新たなスタイルの学習・交流の「場」を通じた、学生の自発的発展促進の試み

取組の概要：

本取組は、40年余にわたる教養教育を中心とした学科を基礎に、地域総合科学科として発展改組したライフデザイン総合学科の学習や教育を、ゼミ活動の実践を通じて検証し、学生自らのライフデザインやキャリアデザインを支援するものである。

本学の伝統である少人数のゼミ活動を主体に、卒業生、同窓生、父母を含む地域社会とのコラボレーションにより総合的に取り組む。具体的には、「場」としてのミーティングルーム（愛短カフェ）を企画運営させることを核とし、オープンな場でのネイティブスピーカーとの交流による英語や中国語の会話、敬語などの日本語運用能力、地域の食文化研究とメニュー企画、事業計画や店舗運営などを実践する。

学生は、こうした多様な科目群を横断し、それぞれの学習内容を共有しつつ実践する場と、新たに開発する電子カルテやSNSを用いた学習コミュニティにより、地域や卒業生とも連携しつつ、自ら成長していくことができる。

9. 非常勤教員との懇談会開催（2007年度）

従来不定期に行われてきたものをリニューアルし、半期ごとに開催することとした。また、開催にあたっては、非常勤教員はその出講日以外参加しにくいという点を考慮し、1日ではなく、曜日をずらして4～5日行うようにし、出来るだけ多くの方に出席

いただけるようにした。結果として毎回多くの方に参加いただき、本学としての考えをお伝えすると同時に、様々な意見や要望、さらに専任スタッフでは気づかない種々の指摘をいただいている。なお、お伺いしたことの中で、対応が必要なものについては、即時対応可能、中期的に検討、長期的に検討、に分け、できるところから対処するようにし、また、対応の状況を非常勤教員にフィードバックしている。2008年度以降もこのような形で開催していきたいと考えている。

10. 授業内講演会開催（2007年度）

1年次秋学期の全員必修科目「発想・議論演習」の時間を1コマ分利用し、全員参加の講演会を開催した。これは、学生が身近に感じられる若手の女性で、社会の一線で活躍されている方に講師をお願いし、自分の生き方や仕事について語っていただき、その話を通じて、学生が自らの将来に対する意識を高め、自分らしい生き方や職業について主体的に考える1つのきっかけを得られればという意図のもと企画されたものであり、今後とも継続して開催したいと考えている。

11. 『愛短情報』発行（2007年度）

本学と併設の愛知大学は共通の広報誌『愛知大学通信』を1年度4回発行しているが、その発行にあわせる形で、別途独自に、内容を本学に関する事柄に特化した『愛短情報』を作り、学生の父母、その他関係の方々に配布し、その折々の本学の状況や学事日程、その他の情報を提供している。2008年度以降も継続して発行する予定である。

12. 豊橋創造大学短期大学部との単位互換開始（2007年度）

旧学科以来、併設の愛知大学、その他の愛知県内大学間との単位互換制度による単位認定を行ってきたが、カリキュラムのさらなる充実と地域社会とのより一層の連携を目指し、新たに、同一市内にある豊橋創造大学短期大学部と単位互換協定を締結し、相互交流をスタートさせた。相手校のカリキュラムにない科目を開放しあうことにより、双方の学生により多様な学びの機会を提供できるようになった。

13. 学習・教育支援センター設置（2007年度）

学生の学習活動および教員の教育活動を支援し、大学教育の充実と発展に寄与することを目的として、併設の愛知大学と合同で設置した。学生の学習活動支援に関しては、内部組織として相談室を置き、アドバイザーによる履修相談、学習上の指導と助言などを行っている。また教員の教育活動支援に関しては、現在のところ、授業の出席管理、教材準備などの補助を行っている。

14. SPI試験対策講座設置（2007年度）

学生の就職活動支援の一環として、多くの企業で入社試験に採用されている適性検査SPI用の受験対策講座開設を計画し、キャリア支援課所管の職業支援講座の1つとして設置するに至った。年度開始後の募集にもかかわらず、89名の学生が受講した。

2008年度以降も、学生のニーズに応えるべく、継続して開催する予定である。

15. 新入生父母との懇談会（2007年度）

新入生の父母に本学での勉学や学生生活、進路に関する様々な情報を提供し、また父母から質問や意見を直接伺うべく、入学式式典終了後に専任教員との懇談会を開催した。2008年度以降も引き続き開催したいと考えている。

16. 「ノートPC活用による e-Learning 学習支援」（「平成 16 年度愛大版特色ある大学教育支援プログラム」採択プログラム）の本格的実施（2005年度）

本学を含む愛知大学全体で、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」の学内版ともいえるべき制度があり、本学から上記名称のプログラムを申請し、前年 2004 年度に採択された。そして、学科改組後に、改めてそれにあわせる形で実施を本格化させた。

このプログラムでは、情報活用能力の育成を語学学習に有効活用すべく、いくつかの試みを複合的に行った。主要なものとしては、市販 e-learning 教材（TOEIC スコアアッププログラム）の活用、携帯音楽プレーヤーによるヒアリング力向上などがある。

TOEIC スコアアッププログラムについては、4月に希望者を募り、説明会やプログラムを通じた進捗管理を教員が行った。22名の受講者があったが、操作上の大きなトラブルはほとんどなく、パソコンを使用する学習ということが十分に可能であることがわかった。実際の学習効果については、受講者によって開始時の語学力やトレーニングの頻度が異なるため一概には言いにくいだが、地道に継続した学生については、実力診断テストの結果でも比較的高い結果（正答率 50%前後）であった。

一方、ヒアリング能力向上という点では、ハワイ大学短期語学研修の事前研修とリスニング系授業の課外フォローアップの一環として、それぞれ学生に携帯音楽プレーヤーを貸与し、聞き取り課題を課した。その結果、期間的には短いものではあったが、ヒアリング能力の向上などに一定の効果が認められた。

限られた範囲であったため、定量的な成果分析にはいたっていないが、当初計画に掲げた最終目標「パソコンと英語という具体的で、学生にも分かりやすいスキル習得」には一定の成果があったと考えている。

V. 将来構想・今後の課題

現在、本学と、併設の愛知大学全学部にまたがる再編が計画され、全学的な取りまとめがなされている段階である。この再編は、本学にも様々な点で少なからぬ影響を与えるものと予想されるため、本学の具体的将来像については、全学的な取りまとめの結果が出た段階で、それをもとに改めて検討したいと考えている。なお、本学の将来に関連し、現段階で今後の課題として認識されている事項（大項目）を以下に記す。

1. 志願者・入学者をいかに増やすか。
2. カリキュラムをどのように点検し、改善していくか。
3. 学生の進路選択・決定をどのようにサポートするか。
4. 学生の満足度をいかに高めるか。

開講科目表

赤字=06変更

青字=07変更

=学部共通科目

| 系 列 | 授業科目の名称 | 単 位 数 | 05 | | 06 | | 07 | |
|--|-----------------------------|-------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| | | | ク ラ ス 数 | 履 修 者 数 | ク ラ ス 数 | 履 修 者 数 | ク ラ ス 数 | 履 修 者 数 |
| 共 通 エ リ ア | 基 礎 演 習 | 2 | 9 | 249 | 10 | 246 | 10 | 238 |
| | 発 想 ・ 議 論 演 習 | 2 | 9 | 248 | 10 | 245 | 10 | 240 |
| | 美 し い 日 本 語 | 2 | 5 | 217 | 5 | 222 | 6 | 222 |
| | 文 書 表 現 演 習 | 2 | 5 | 201 | 5 | 179 | 5 | 183 |
| | ラ イ フ プ ラ ン ニ ン グ | 2 | | 137 | | 102 | | 125 |
| | キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ | 2 | | 59 | | 113 | 2 | 244 |
| | 情 報 リ テ ラ シ ー | 2 | 5 | 216 | 5 | 226 | (教養)情報総合演習に変更 | |
| 色 彩 と デ ザ イ ン | 2 | 2 | 114 | 2 | 130 | 2 | 137 | |
| ベ ー シ ッ ク フ イ ー ル ド 科 目 | 哲 学 | 2 | | 36 | | 93 | | 59 |
| | 文 学 | 2 | | 68 | | 106 | | 98 |
| | 英米文学(児童文学) | | | | | 109 | | 90 |
| | 芸 術 | 2 | | 80 | | 127 | | 48 |
| | 文 化 人 類 学 | 2 | | 77 | | 46 | | 57 |
| | 現 代 社 会 の あ ゆ み | 2 | | 14 | | 21 | | 32 |
| | 女 性 と 社 会 | 2 | | 56 | | 196 | | 158 |
| | 社 会 と 福 祉 | 2 | | 67 | | 59 | | 116 |
| | コ ミ ュ ニ テ イ 論 | 2 | | 57 | | 65 | | 40 |
| | コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 論 | 2 | | 133 | 心理コミュニケーション論 | | | |
| | 心 理 学 | 2 | | 81 | 人間関係の心理Ⅰ・Ⅱ | | | |
| | 法 学 | 2 | | 169 | | 136 | | 116 |
| | 経 済 学 | 2 | | 172 | | 62 | | 96 |
| | 流 通 論 | 2 | | 48 | | 131 | | 68 |
| | 教 育 学 | 2 | | 114 | | 50 | 現代の子供と教育 | |
| | 現 代 の 子 供 と 教 育 | | | | | | | 142 |
| | 地 球 と 環 境 | 2 | | 86 | | 103 | | 101 |
| | 情 報 応 用 | 2 | 5 | 180 | 5 | 175 | 共通科目として下記7科目に編成 | |
| | 情 報 総 合 演 習 | | | | | | 2 | 25 |
| | マ ル チ メ デ ィ ア 表 現 | | | | | | 2 | 54 |
| | 情 報 総 合 演 習 | | | | | | | |
| | マ ル チ メ デ ィ ア 表 現 | | | | | | | |
| | ネ ッ ト ワ ー ク と セ キ ュ リ テ ィ ー | | | | | | 2 | 7 |
| | モ デ ル 化 と デ ー タ ベ ー ス | | | | | | 3 | 5 |
| | プ ロ グ ラ ミ ン グ | | | | | | 4 | 19 |
| | 情 報 の 科 学 | | | | | | 2 | 3 |
| 情 報 と 社 会 | | | | | | 2 | 10 | |
| 生 涯 学 習 概 論 | | | | | | | 40 | |
| 情 報 文 化 論 Ⅰ | | | | | | | 27 | |
| 情 報 文 化 論 Ⅱ | | | | | | | 23 | |

別表1

赤字=06変更

青字=07変更

=学部共通科目

| 系 列 | 授業科目の名称 | 単 位 数 | 05 | | 06 | | 07 | |
|--|------------------|-------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| | | | ク ラ ス 数 | 履 修 者 数 | ク ラ ス 数 | 履 修 者 数 | ク ラ ス 数 | 履 修 者 数 |
| ベ ー シ ツ ク フ イ ー ル ド 科 目 | ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 | | | | | | | 38 |
| | 健 康 ・ ス ポ ー ツ I | 1 | 3 | 67 | 3 | 79 | 3 | 56 |
| | 健 康 ・ ス ポ ー ツ II | 1 | 3 | 46 | 3 | 37 | 3 | 51 |
| | 英 語 初 級 I | 1 | 2 | 91 | 4 | 150 | 4 | 135 |
| | 英 語 初 級 II | 1 | 2 | 57 | 4 | 88 | 4 | 86 |
| | 英 語 中 級 I | 1 | | — | | | | 27 |
| | 英 語 中 級 II | 1 | | — | | | | 13 |
| | PracticalEnglish | | | | | | | |
| | 中 国 語 初 級 I | 1 | 3 | 82 | 3 | 76 | 3 | 77 |
| | 中 国 語 初 級 II | 1 | 3 | 65 | 3 | 51 | 3 | 48 |
| | 中 国 語 中 級 I | 1 | | — | | 30 | | 20 |
| | 中 国 語 中 級 II | 1 | | — | | 12 | | 11 |
| | 日 本 語 I | 1 | | — | | | | |
| | 日 本 語 II | 1 | | — | | | | |
| | 日 本 語 III | 1 | | — | | | | |
| | 日 本 語 IV | 1 | | — | | | | |
| | ド イ ツ 語 初 級 I | 1 | | 33 | | 14 | | 16 |
| | ド イ ツ 語 初 級 II | 1 | | 17 | | 8 | | 8 |
| | ド イ ツ 語 中 級 I | 1 | | — | | 4 | | 2 |
| | ド イ ツ 語 中 級 II | 1 | | — | | 4 | | 2 |
| フ ラ ン ス 語 初 級 I | 1 | | 32 | | 34 | | 35 | |
| フ ラ ン ス 語 初 級 II | 1 | | 24 | | 17 | | 17 | |
| フ ラ ン ス 語 中 級 I | 1 | | — | | 12 | | 8 | |
| フ ラ ン ス 語 中 級 II | 1 | | — | | 6 | | 6 | |
| 大 学 史 | 2 | | | | | | 8 | |

別表1

| 系列 | 授業科目の名称 | 単位数 | 05 | | 06 | | 07 | | |
|----------------------------|---------------------|--------------|------|------|------|----------|-----------------------|------|-----|
| | | | クラス数 | 履修者数 | クラス数 | 履修者数 | クラス数 | 履修者数 | |
| セレクト ワールド 科目 | 日本文化エリア 伝統文化ユニット | 日本文化のかたち | 2 | | 26 | | 36 | | 46 |
| | | (日本の食と文化) | 2 | | — | | 97 | | 51 |
| | | (日本の食と文化演習) | 2 | | | | — | | 2 |
| | | 地域の文化 | 2 | | 62 | | 81 | | 41 |
| | | 伝統文化演習 | 2 | | — | | 20 | | 38 |
| | 日本文化エリア 現代文化ユニット | 映像文化 | 2 | | 43 | | 56 | | 72 |
| | | モダンカルチャー論 | 2 | | — | | 109 | | 97 |
| | | エンターテイメント文化 | 2 | | — | | 116 | | 120 |
| | | 現代文化演習 | 2 | | — | | 7 | | 20 |
| | 日本文化エリア 日本文学ユニット | 日本文学の歴史 | 2 | | 99 | | 56 | | 42 |
| | | 文学の環境 | 2 | | — | | 100 | | 93 |
| | | 古典作品を読む | 2 | | — | | 51 | | 46 |
| | | 近代の作家と作品 | 2 | | 68 | | 77 | | 79 |
| | | 現代小説を読む | 2 | | — | | 73 | | 85 |
| | | 詩歌を読む | 2 | | 31 | | 125 | | 37 |
| | 日本語エリア 日本語技能ユニット | 論証作文 | 2 | | — | | 85 | | 95 |
| | | (図表化技法) | 2 | | — | | | | |
| | | ドキュメンテーション演習 | 2 | | — | | 53 | | 53 |
| | | (プレゼンテーション) | 2 | | — | | | | |
| | | 応用敬語 | 2 | | 168 | | 103 | | 122 |
| 日本語エリア 日本語教育技能ユニット | 文字研究 | 2 | | 87 | | 92 | | 94 | |
| | 日本語教師への日本語文法Ⅰ | 2 | | — | | 68 | | 93 | |
| | 日本語教師への日本語文法Ⅱ | 2 | | — | | 46 | | 32 | |
| | 日本語と英語の音声 | 2 | | 15 | | 64 | | 40 | |
| | 日本語教授法 | 2 | | — | | 16 | | 31 | |
| 言語コミュニケーション | 2 | | 68 | | 152 | | 199 | | |
| 英語コミュニケーションエリア 英米文化ユニット | 西洋の伝統思想 | 2 | | 39 | | 22 | | 43 | |
| | アメリカの歴史と文化 | 2 | | — | | 68 | | 46 | |
| | イギリスの歴史と文化 | 2 | | — | | 68 | | 46 | |
| | 児童文学 | 2 | | 51 | | (教養)英米文学 | | | |
| | 英文講読Ⅰ | 2 | | 54 | | 休講 | 英米文学ユニットは05年度入学生のみで廃止 | | |
| | 英文講読Ⅱ | 2 | | 休講 | | 62 | | | |
| | イギリス小説のおもしろさ | 2 | | 78 | | 休講 | | | |
| | 英米文学演習 | 2 | | — | | 25 | | | |
| | 英米文学演習 | 2 | | — | | 25 | | | |
| | 英語コミュニケーションエリア | コミュニケーションⅠ | 2 | 3 | 97 | 3 | 81 | | |
| コミュニケーションⅠ | | | | | | | 3 | 80 | |
| コミュニケーションⅠ | | | | | | | 3 | 55 | |
| スピーキングⅠ | | 2 | 3 | 52 | 3 | 44 | | | |
| コミュニケーションⅡ | | | | | | | 3 | 64 | |
| コミュニケーションⅡ | | | | | | | 3 | 34 | |

別表1

| 系列 | 授業科目の名称 | 単位数 | 05 | | 06 | | 07 | | |
|---------------------------------|------------------------------------|--------------------------------|--------|------|------|------|------|------|-----|
| | | | クラス数 | 履修者数 | クラス数 | 履修者数 | クラス数 | 履修者数 | |
| セレクト フイ ール ド 科 目 | 英語コミュニケーションエリア スピーキング・リスニングユニット | スピーキングⅡ | 2 | 3 | — | 3 | 23 | 2 | 9 |
| | | コミュニケーション英語Ⅲ | | | / | | / | | / |
| | | コミュニケーション英語プラスⅢ | | | / | | / | | / |
| | | スピーキングⅢ | 2 | 3 | — | 3 | 5 | 2 | 5 |
| | | コミュニケーション英語Ⅳ | | | / | | / | | / |
| | | コミュニケーション英語プラスⅣ | | | / | | / | | / |
| | | リスニングⅠ | 2 | 2 | 69 | 2 | 61 | 2 | 53 |
| | | リスニングⅡ | 2 | 2 | — | 2 | 36 | | 28 |
| | | リスニングⅢ | 2 | 2 | — | | 13 | | 18 |
| | | 海外語学研修入門 | | | / | | / | | 28 |
| | | 英語圏短期研修 | | | / | | / | | 28 |
| | | (日本語と英語の音声) | 2 | | — | | | | |
| | (言語コミュニケーション) | 2 | | — | | | | | |
| | ライディング・ライ | ラピッドリーディングⅠ | 2 | 2 | 47 | 2 | 40 | 2 | 52 |
| | | ラピッドリーディングⅡ | 2 | 2 | — | 2 | 49 | 2 | 39 |
| | | ラピッドリーディングⅢ | 2 | 2 | — | 2 | 27 | 2 | 15 |
| | | ベーシックライティングⅠ | 2 | 3 | 60 | 3 | 70 | 3 | 45 |
| | | ベーシックライティングⅡ | 2 | 2 | — | 2 | 42 | 2 | 36 |
| | | マスメディアイングリッシュ (ビジネスイングリッシュ) | 2 2 | 2 | — | 2 | 31 | 2 | 35 |
| | オフィス・情報エリア | ビジネス基礎 | | | | | | | 95 |
| | | ビジネスマナー | 2 | 2 | 133 | 2 | 96 | 2 | 124 |
| | | (ドキュメンテーション演習) | 2 | | — | | | | |
| | | 簿記会計実務 | 2 | | — | | 49 | | 67 |
| | | 簿記会計実務Ⅰ | | | | | | | 79 |
| | | 簿記会計実務Ⅱ | | | | | | | — |
| | | 産業社会と人間 | 2 | | 51 | | 114 | | 85 |
| | | プレゼンテーション | 2 | | — | | 41 | | 45 |
| | | (社会調査法) | | | | | | | |
| | | ビジネスイングリッシュ | 2 | 2 | — | 2 | 38 | 2 | 39 |
| | | 図表化技法 | 2 | | — | | 43 | | 43 |
| | | W e B デザイン | 2 | | — | | 43 | | 51 |
| | | 生活と情報セキュリティ | 2 | | — | | 33 | | 36 |
| | | 情報機器の操作 | | | | | | 2 | 106 |
| 情報提供論 | | | | | | | | 47 | |
| 情報サービス | | | | | | | 35 | | |
| 情報検索演習 | | | | | | | — | | |
| 情報管理論 | | | | | | | — | | |
| 情報機器論 | | | | | | 2 | 37 | | |

別表1

| 系列 | 授業科目の名称 | 単位数 | 05 | | 06 | | 07 | | |
|---------------------|--------------|-----------------|--------------|------|------|------|----------|------|-----|
| | | | クラス数 | 履修者数 | クラス数 | 履修者数 | クラス数 | 履修者数 | |
| セレクト フイールド 科目 | 食・健康・スポーツエリア | (たべものと栄養) | 2 | | 105 | | 74 | | 105 |
| | | たべものと栄養の演習Ⅰ | 2 | | 40 | | 31 | | 41 |
| | | たべものと栄養の演習Ⅱ | 2 | | — | | 37 | | 31 |
| | | たべものの環境 | 2 | | — | | 休講 | | / |
| | | 健康と環境 | 2 | | 76 | | 82 | | 67 |
| | | 健康と環境の演習Ⅰ | 2 | | — | | 29 | | 29 |
| | | 健康と環境の演習Ⅱ | 2 | | — | | 12 | | 15 |
| | | (食生活プランニング) | 2 | | — | | 休講 | | 54 |
| | | おいしさの科学 | 2 | | — | | 8 | | 5 |
| | | 食品食材の知識 | 2 | | 67 | | 80 | | 82 |
| | | ベーシッククッキング演習 | 2 | 2 | 44 | 2 | 38 | | — |
| | | ヘルシークッキング演習 | 2 | 2 | — | 2 | 19 | 2 | 51 |
| | | ティータイムコーディネート演習 | 2 | 2 | — | 2 | 41 | 2 | 19 |
| | | 食文化ユニット | 日本の食と文化 | | | | | | |
| | 日本の食と文化演習 | | | | | | | | |
| | 地域の食文化 | | | | | | | | |
| | 儀式行事と食芸術と食 | | | | | | | | |
| | 健康・スポーツユニット | 女性のからだと健康 | 2 | | 120 | | 128 | | 149 |
| | | ダイエットと運動 | 2 | | — | | 83 | | 64 |
| | | アウトドアライフ演習 | 2 | 2 | — | 2 | 33 | 2 | 30 |
| | | レジャー・レクリエーション演習 | 2 | | — | | 41 | | 36 |
| | | たべものと栄養 | 2 | | / | | / | | / |
| | | 食生活プランニング | 2 | | / | | / | | / |
| | 人間社会エリア | 人間社会ユニット | 人間関係の心理 | 2 | | 119 | 人間関係の心理Ⅰ | | |
| | | | 人間関係の心理Ⅰ | 2 | | / | 154 | | 129 |
| | | | 人間関係の心理Ⅱ | 2 | | / | 142 | | 53 |
| | | | 心理コミュニケーション論 | 2 | | / | 148 | | 99 |
| | | | コミュニティの心理 | 2 | | 78 | 人間関係の心理Ⅱ | | |
| | | | 乳幼児の心理 | 2 | | — | 85 | | |
| | | | 学びの心理学 | 2 | | — | 73 | | |
| | | | 現代社会と生活 | 2 | | 19 | 32 | | 26 |
| | | | 日本社会論 | 2 | | 13 | 41 | | 9 |
| | | | 生活と福祉 | 2 | | 39 | 83 | | 43 |
| 社会調査法 | | | 2 | | — | 27 | | 48 | |
| 家族論 | | | 2 | | — | 19 | | 46 | |
| マスコミュニケーション論 | | | 2 | | — | 93 | | 111 | |
| 児童サービス論 | | | | | | 23 | | | |

別表1

| 系列 | 授業科目の名称 | 単位数 | 05 | | 06 | | 07 | |
|-------------------|----------|-----|------|------|------|------|---------|------|
| | | | クラス数 | 履修者数 | クラス数 | 履修者数 | クラス数 | 履修者数 |
| 卒業科目 プロジェクト | 卒業研究 I | 2 | | — | 16 | 240 | 13 | 233 |
| | 卒業研究 II | 2 | | — | 16 | 238 | 13 | 233 |
| 特別 フイールド 科目 | 海外研修 I | 2 | | | | | | |
| | 海外研修 II | 2 | | | | | | |
| | ボランティア活動 | 2 | | 29 | | 37 | エリア変更 (| |
| | 技能検定 I | 2 | | | | | | |
| | 技能検定 II | 2 | | | | | | |

2009年3月6日

愛知大学短期大学部 2007年度自己点検・評価報告書 補足

I. 記載項目の追加について

「IV. 学科開設後に計画して実施した改善・工夫、成果を上げた事項」に以下の項目を追加。

17. 『履修のしおり』作成・配布および履修指導への利用（2007年度）

新入生が本学における科目の履修というものをできるだけ早く把握し、また実際に自ら履修を考える際に役立つよう、科目選択の基礎となるエリアの紹介や、情報教育、ハワイ研修、インターンシップなどについての詳しい説明、さらに、履修に関する諸事項をQ&A方式でまとめたものを記載した『履修のしおり』を作成・配布し、クラス別の指導の際に利用した。2008年度以降も、内容・活用方法の改善を図りつつ、学生への配布を続けていきたいと考えている。

II. 「ステップアッププログラム」の実施状況とその成果について

2004（平成16）年度適格認定評価時の本学自己点検・評価報告書 p. 4、pp. 14-17

…「ステップアッププログラム」を設けて、カリキュラム上の科目、単位互換科目及びエクステンション講座の履修による各種の資格取得・検定合格の促進を図る。

本学の「ステップアッププログラム」は、それ自体が独立した課程やプログラムではなく、実際に開講されている授業科目の中で特に資格取得・検定合格のために役立つと思われるものを資格・検定別にグループ化した、“資格取得・検定合格のための履修モデル”である。

なお、参考までに、本学の2007年度の資格取得に関する状況を以下に示す。

| 種類 | 級 | 1年 | 2年 | 計 |
|----------------------------|---------------------------------|----|----|----|
| TOEIC（420点以上） | — | 1 | 2 | 3 |
| マイクロソフト オフィススペシャ リスト | WORD Expert および EXCEL Expert | — | 1 | 1 |
| | WORD および EXCEL | — | 8 | 11 |
| 漢字能力検定試験 | 2級 | 3 | 10 | 13 |
| 秘書検定 | 2級 | 28 | 14 | 42 |
| | 準1級 | 2 | 5 | 7 |
| 合計 | — | 37 | 40 | 77 |

Ⅲ. 履修指導の具体的な実施状況と成果について

2004（平成16）年度適格認定評価時の本学自己点検・評価報告書 pp. 2-3、p. 6

- ・9つの履修モデル例 (pp. 2-3)
- ・学生それぞれの学習目的に合った履修モデルを具体的に例示して指導する。(p. 6)

1年生については、まず、入学時のオリエンテーション期間中に、全員参加の「履修ガイダンス」、そしてその後、所属クラスの担任による「クラス別ガイダンス」を行い、説明・指導をだんだんと具体化、個別化させ、最後のステップとして、個々の学生を対象とする「履修相談」の時間を設け、教職員が最終的な対応・指導にあたっている。その後、春学期授業期間末の段階で「エリア（専攻）選択に関するガイダンス」、秋学期履修登録時に「履修ガイダンス」、「履修相談」、年末に、2年次に向けての「卒業研究ガイダンス」をそれぞれ実施している。また、2年生については、学期毎に「履修ガイダンス」、「履修相談」を設定し、その中で指導を行っている。さらに、問題を抱えている学生に対しては、専任スタッフにより個別の面談・指導が必要に応じて随時行われている。

本学は、この学科を構想するにあたって、できるだけバラエティに富んだ科目を提供して、学生が自らの志向と必要に応じて能動的に科目を選択、履修できるようにし、学生の学びの多様性を最大限に尊重するという方針を立てた。教育課程にもその考えが貫かれており、2007年度自己点検・評価報告書にも記載の通り、特に本学での勉学の最初（基礎）と最後（まとめ）の部分のコアと位置づけるいくつかの科目のみを全員必修とし、その他の科目は卒業要件のルール内で学生が自由に選択できるようになっている。

こうした、科目を自由に選択できるという点に関して、学生は高校まで、基本的にいわば“レディーメード”のパターンで履修をしてきて、自分の将来を見据えつつ能動的に科目を選ぶことに慣れていないという点を考慮し、学生が自らの学びを考える上での参考になるような、将来の目標別の系統だった履修モデル（上記の「9つの履修モデル」）を学科開設時に用意した。この履修モデルを印刷物にして入学時に全員に配布し、また履修指導の際にも利用し、できるだけ効果的で系統だった学習を行うよう促してきた。（詳しくは別添の『十人十色の履修モデル』を参照。）また、Iに記載のとおり、『履修のしおり』を作成・配布し、それをもとに、新入生が、本学での履修というものをできるだけ早く把握し、科目選択の自由度が高い点を生かして、自らのカリキュラムを構成できるよう指導してきた。

なお、ここ数年の学生への対応を通じて、この履修指導については、学生間で、それをどの程度必要とするかの度合い（ほとんど必要としない、個別指導がかなり必要、など）の差が年々大きくなりつつあるように思われる。この点を踏まえ、個々の学生のニーズにできるだけあわせた、よりきめの細やかな対応が取れる指導体制を検討している段階である。